



K.UNO NEWS LETTER

Vol.29

ケイウノは全国に店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。
この広報通信では、毎月1回、ケイウノのジュエリーやオーダーメイドに関する
さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けします。



お互いの強みを生かして
日本のものづくりとオーダーメイド文化を
世界に発信していきたいと思っています

今夏8月6日、ケイウノは台湾の首都・台北にケイウノ台湾1号店を出店しました。店舗名は「台北忠孝旗艦店」。本年3月に、プリモ・ジャパン(株)と共同出資して台湾に設立した「愷吾柔璞琳夢股份有限公司」からの初めての店舗であり、ケイウノ初の海外店になります。

プリモ・ジャパンとケイウノの協業はジュエリー業界において非常に稀有とされており、注目が集まっています。今回は協業に至った経緯や今後の展開についてプリモ・ジャパンの澤野直樹社長をお迎えし、ケイウノ社長・久野を交えて話をうかがいます。



オープニングイベント テープカットの様子

左から) 愷吾柔璞琳夢股份有限公司 西本喬、台北忠孝旗艦店店長 鄧喬文
ケイウノ代表取締役社長 久野雅彦、女優 夏于喬さん、プリモ・ジャパン 澤野直樹社長

協業のきっかけは、 イベント控室での出会い

「両社が協業されたきっかけを教えてくださいますでしょうか。」

久野：IJT(国際宝飾展)の日本ジュエリーベストドレッサー賞でお会いしたことです。2018年の冬です。

澤野：控室でお会いしたのですが久野社長が部屋に入ってから来た時のことを、今でも鮮明に覚えています。えんじ色のコートにおしゃれなハットをかぶって、クラシックなバッグを手になさって。ものすごいオーラに圧倒されました。

久野社長とはその時が初めてだったんですが、以前からうちの社員がお世話になっていて、いろいろな話は聞いていました。ご挨拶をしてお礼を申し上げ、少し話をしていくうちに何だかもっと話したくなつて。

久野：それは僕も同じで、では食事に行きますかと。

「初めて会ったその日に意気投合されたわけですね。どんな話をされたのでしょうか。」

澤野：いろんな話をさせていただいたのですが、うちの商品がまだまだとご指摘をいただいたりして。久野：いや、まだまだなんて言っていないですよ。

プリモさんの商品は精度も高いし



「澤野さんと出会えたことがうれしい」(久野)

デザインも洗練されている。ただ商品に対する考え方の話はたくさんしましたね。金属の話とか。

澤野：はい。少し説明しますと、元来プリモ・ジャパンのリングは鍛造（金属を金型でたくく製造法）を良くしてきました。鍛造すると金属は硬くなって、キズがつきにくく、曲がりにくい。うちは中心となるのがブライダル商品なので、縁起を担ぐ意味でも「キズがつかない・曲がらない」ことを是としてきました。

でも、久野社長から「お客様をキズつけないよう」に金属は柔らかく、鑄造（金属を溶かして金型に流し込む製造法）が良いと。

久野：そう。リングにキズがついたり、曲がったりしたら直してあげれば良いですね。

澤野：それを聞いた時、とても衝撃を受けました。私は大学を卒業して

この業界に入ったので、経験自体は長いんです。ただ、職人でもデザイナーでもなくて、ずっと売る側で。なので売り方にはこだわりがあり、私たちはモノを売るのではなく、コトを売るサービス業なんだというのを大切にしてきました。

でも、金属に対する基礎知識については、久野社長に教えていただくことが沢山あります。

久野：澤野社長がおっしゃる、縁起物だからキズがつかない、曲がらない方がいいというのわかるんです。でも身につけた時、柔らかい方が肌あたりがよく、つけ心地がいいんです。人の感覚はとても敏感でむく板を触るだけで、柔らかいと感じる力がありますから。

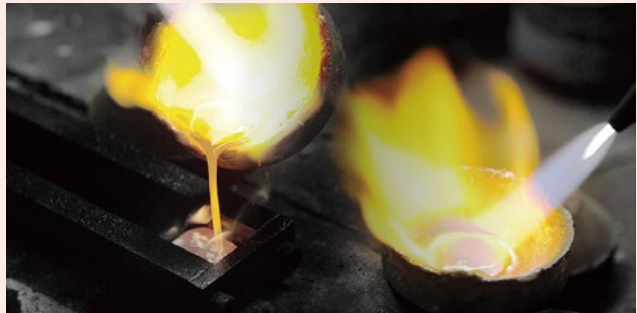
澤野：そうした話に感銘を受けてそれ以後も何度もお会いして、たくさんお話をさせていただくことになりました。



「職人としての誇りに感銘を受けました」(澤野社長)



右の製造法を用いて制作したケイウノオリジナルリング



ロストワックス鑄造方法の製作工程で、金属を溶かしている様子

共同出資会社設立当初は、 カルチャーの違いに驚き



台北忠孝旗艦店の壁を、自らデザインする久野

― 出会われてから約1年後、今年の4月に共同出資会社を台湾に設立されました。こうした協業は、ジュエリー業界に於いては非常に珍しいことだとうかがいました。

久野：とんでもなく珍しいことです。お互いに想いがあるって、協力し合えば何かできるとわかっていながら、成り立した試しがありません。

澤野：ジュエリー業界は圧倒的にオーナーシップの会社が多いんです。お互いに家業の伝統とプライドがあるため、そう簡単にノウハウ提供もしないし、競合の域を出るのが難しいところがあります。



柔らかな曲線が印象的な店内。ハート型の窓は大切な人との撮影にもオススメ

久野：確かにそうです。ただ、今のジュエリー業界はそんなことにこだわっている場合ではないのです。ものづくりの海外流出、ブライダル市場の縮小など、さまざまな局面で限界が来ています。業界全体の売り上げは、ピーク時1991年の3兆円からすでに3分の1を割っています。



台北忠孝旗艦店外観。最寄りの駅から徒歩1分の好立地

— 実際に会社を設立されていかがですか。
澤野：設立当時は、ミーティングや役員会の度に、カルチャーの違いが出て驚きの連続でした。プリモ・ジャパンが培ってきた考え方や、ケイ・ウノさんが貫き通してきた考え方が異なる部分がいくつもあって。

僕としてはものすごい危機感を抱きながら、業界をよくしたい、日本のもので作りを再生したいと切に願っていたところに、同じ想いを持つ澤野さんと出会うことができ、もう嬉しくて。自分たちが築き上げてきたことをどんどん伝えたいなりました。

久野：とても勉強になりました。
澤野：はい。新鮮でした。うちは、リスクは全部洗いだしてそれが解決しないと動かない。頭でっかちになつていたところがあったりして。
久野：わかります。でもリスクを怖がつてじつと家において人生は楽しいでしょうか。外に出れば交通事故に合う可能性はあるし、ことによると隕石だつて降ってくるかもしれない。でも、どうせ生きていくならやるべきことはやりませんか。
澤野：そうした久野社長のパッションと、職人としてのものづくりへのこだわりは、私だけでなく経営幹部にも大きな影響を与えてくれています。

オーダーメイド文化を根付かせ、3年をめどに黒字化を目指す

— 台湾にできるケイウノ1号店について、お話いただけますでしょうか。
澤野：まず台湾のジュエリー市場ですが、ここ3年〜5年ほど、日系ブランドの進出が増えています。
久野：ケイウノ1号店は、ブライダルを中心に展開していきます。日本のケイウノと同じように店内に工房を併設し、ケイウノの職人が常駐、ジュエリーデザイナーによるデザイン提案も行います。現在の台湾では、商品は既存のものを買うのが普通なので、デザイン提案などオーダーメイドはお客様にとっても初め



台湾の人気女優・夏于喬さんとプレゼントした結婚指輪



てのこと。なので、オーダーメイドという文化を根付かせたいと思っています。

澤野：デザイン提案については事前のイベントで手ごたえを感じています。デモンストレーションとして、久野社長自らがデザインを起すパフォーマンスを何度か実施していただいたんですが、スタッフにも非常に評判がいい。ですので、オーダーメイドという文化がないだけ、知られていないだけで、受け入れられる余地は十分あると判断しています。

久野：経営的には、今夏出店して3年をめどに黒字化できればという事です。

澤野：プリモ・ジャパンは、新しいマーケットで事業を展開していく上で、3年での黒字化を実現してきました。ですが、黒字化できなかったら撤退ということではありません。3年で投資回収するのではなく、単月でも黒字になって、そこから利益が回収できる状態にもっていくということです。

—最後に今後の展望について、お聞かせください。

久野：日本からものづくりというものがなくなっていくスピードが尋常ではありません。ですが、日本人が持つ優れた美意識と緻密な造作ができる技術をなくしてはならない。

僕は日本という国にもものづくりがちゃんと根付くようにしたいし、そのためにケイ・ウノをずっと存続している会社にしたいと考えています。

今回の台湾出店を機に、オーダーメイドというキーワードと共に、ケイ・ウノと日本がさらに世界に進出していければいいなと思っています。ですが、それはケイ・ウノだけではできません。プリモ・ジャパンさんの優れたマーケティング力や海外での実績と協業させてもらってこそ、その想いが実現できる。澤野さん、今後ともよろしくお願いします。

澤野：いえいえ、こちらこそ。もともと私自身は久野社長の考えに非常に近いところがあつたんですが、いつのまにか「頭」だけで考えるようになって、「心」で考えることが足りていませんでした。ですから久野社長にお会いして、原点に戻らせてもらったという気持ちです。改めてお礼を申し上げると共に、これからもどうぞよろしくお願いします。

—お二人の素敵な出会いに乾杯！です。今日は本当にありがとうございました。



25社ものメディアが取材に詰めかけ、大賑わいのオープン当日の様子



いいパートナーシップを築いて、ジュエリー業界の発展に努めたいと両社長

8月の誕生石「ペリドット」

透き通ったグリーンが爽涼感をもたらすペリドット。石言葉に「夫婦の幸福」を持つことから、結婚記念日のカラーストーンとしても、パートナーへの誕生日の贈り物としても人気があります。写真は、繊細なきらめきを放つピアス。石の周りを囲むミル打ちと呼ばれる丸い粒のふちどりと、オーバルシェイプのペリドットの組み合わせがクラシカルな印象を与えます。キラキラした夏の輝きを集め、動く度に耳元を華やかに演出します。

